

特集

未来の登別漁港

～登別・白老（虎杖浜） マリンビジョン計画～



水産業を取り巻く環境は、資源の減少や魚価の低迷により非常に厳しく、漁業後継者が年々減少している状況にあります。

このような中、国の水産食料供給基地として北海道水産業を守り育てていくため、北海道開発局が『北海道マリンビジョン21』構想を掲げました。

この構想に基づき、登別漁港周辺でもおおむね10年間を計画期間とする『登別・白老（虎杖浜）マリンビジョン計画書』を作成しました。

今月号では、この計画書や登別漁港の整備計画についてお知らせします。



北海道マリンビジョン21構想

北海道は日本の 水産食料供給基地

北海道は優れた漁場の立地と漁業関係者の努力で、全国の漁業生産高の4分の1、漁業生産金額の17%のシェアを誇っています。

また、水産加工生産量も2割弱の規模を維持し、日本の重要な水産食料供給基地としての役割を担っています。

北海道水産業の抱える問題

水産資源の減少と魚価の低迷により、年々漁業事業者が減少し、高齢化も進んでいます。

また、水産業を通じた広域的な視点で個性を生かした地域づくり、自主・自立の地域運営システムなどの積極的な取り組みが、地域に求められています。

明日の活力ある北海道 水産業の創造に向けて

このような状況の中、全国の水産食料供給基地としての活力ある北海道水産業の大切な役割を守り育てていくために、北海道開発局は明日の活力ある北海道の水産業の創造に向けて『北海道マリンビジョン21』構想を掲げました。